

## 重度の肝疾患に、生体肝移植という治療法で立ち向かう

器官制御外科学(肝・胆・膵・移植外科) 中村太郎 医師



### PROFILE

なかむらたろう◎愛媛大学医学部・器官制御外科学講師。1993年愛媛大学医学部卒業。医学博士。肝疾患、肝移植治療を専門に活躍。学生時代はバレーボール部に所属。たまの休日は2人の子供と遊ぶことが楽しみ。

私の専門は肝臓外科、特に肝移植です。自身の肝臓では生命を維持できないような、重度の肝疾患を持っている方において、生体肝移植という治療を行っています。日本における肝移植の歴史は浅く、1例目は1989年。愛媛大学では1例目が2001年9月に行われ、現在まで20例の移植手術を行いました。今年は半期で既に5例の移植を行いましたし、移植を待っている患者様も多くいます。2004年の1月から保険の適応が拡大されたことも増加の理由の一つです。例えば、成人の重度の肝硬変や肝細胞がん、劇症肝炎などが保険適応になりました。肝移植には、大きく生体肝移植と脳死肝移植があります。愛媛大学で行っている生体肝移植は、身内の方から肝臓の一部を提供していただいています。手術の安全性が高まる中、肝移

植は移植後の管理も重要です。術後も様々なことに配慮しながら、治療しなければいけません。私たちは医師をはじめ、看護師、ICU、手術室、検査部、薬剤部など、治療に係るスタッフ全員が一丸となって、全国に誇れるチームワークで治療にあたっています。生体肝移植は保険適応になって、一般的になりつつあり、今後普及していきます。今後、更に肝移植の治療を定着させることが私の目標です。まだまだ、重度の肝疾患の方はたくさんいらっしゃいます。しかし、一般の医療機関で肝疾患の治療に肝移植を当てはめる医師は、少ないと思います。患者様の中にはそういった治療ができることさえ知らない方も多いでしょう。大変な治療ではありますが、肝移植という治療法があることを多くの方に知っていただき、私どもにご相談、ご紹介ください。

## 血管から健康長寿を目指し、予防医学の役割を担うセンターへ

加齢制御医学(老年内科) 伊賀瀬 道也 医師



### PROFILE

いがせみちや◎愛媛大学医学部・加齢制御医学講師。1991年愛媛大学医学部卒業。医学博士。大学院時代から研究を続けている高血圧(特にレニン-アンジオテンシン系)、動脈硬化を専門に活躍。リフレッシュ法は水泳。1回1km、週に2~3日は泳ぐ。

私は老年内科で循環器を専門としています。高齢者になられると、心臓や血圧の疾患を、手術をして治療をする方は少なく、薬を内服する治療が中心です。ただ、高齢者の方は血圧、糖尿病、腰痛、膝痛など、多くの疾患を持っている方が多く、当科で治療できる疾患以外は専門医を紹介しています。複数の病気を抱えている患者様は、数多くの薬を一度に飲んでいますが、当科で薬の飲み合わせの確認をするなど、総合内科的な役割を担っています。病気になった方を治療するだけでなく、病気にならないための指導を行う予防医学的な役割を果たしたいと、今年2月に抗加齢センターをオープンしました。当センターでは動脈硬化を総合的に判断します。「人は血管とともに老いる」という、古くからの言葉があるくらい、ご自身の年齢と血管年齢に

は差があります。血管年齢を知った上で、健康長寿を達成していただくために必要な指導をさせていただくことが目的です。検査内容は頸動脈エコー、血液検査、頭部MRI・MRA、腹部・大腿部CT、骨密度、認知機能検査などを行っています。非常に多くの方に興味を持っていただき、2月のスタートから、既に130名を超える方に検査を受けていただきました。更に年内は予約で埋まってしまっている状態です。実際に利用いただいた方に、医師に聞けなかったことが聞いて良かったという声もありました。中には、検査内容にある脳ドックで動脈瘤が見つかり、すぐに検査、治療ができたという方もいらっしゃいます。

私のモットーは「一期一会」。検査に来ていただいたお客様一人ひとりが、行って良かったと思っていただけるセンターを目指します。